

- 川俣 正「都市への挿入」スタート!
- Creative Railway開催!
- R16の行方
- BankART SILK終了のお知らせ
- BankART Temporary オープン
- BankART AIR 2020 オープンスタジオ開催!
- 台北市・横浜市アーティスト交流プログラム2019

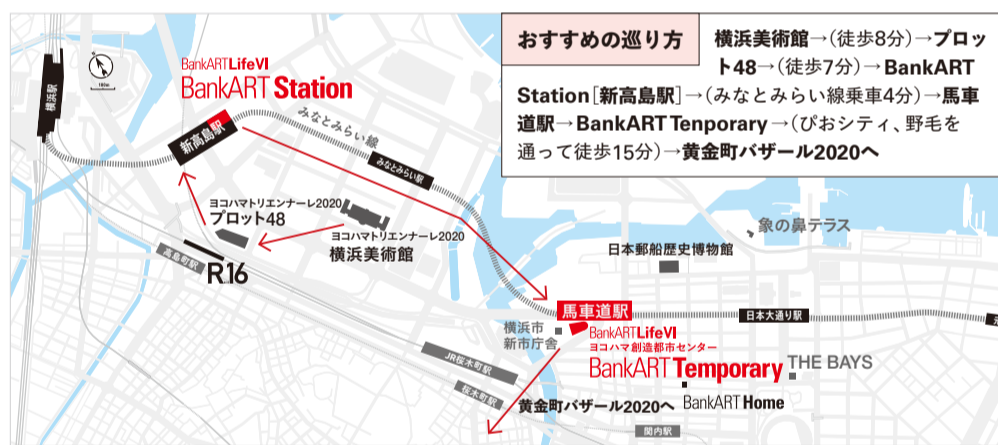
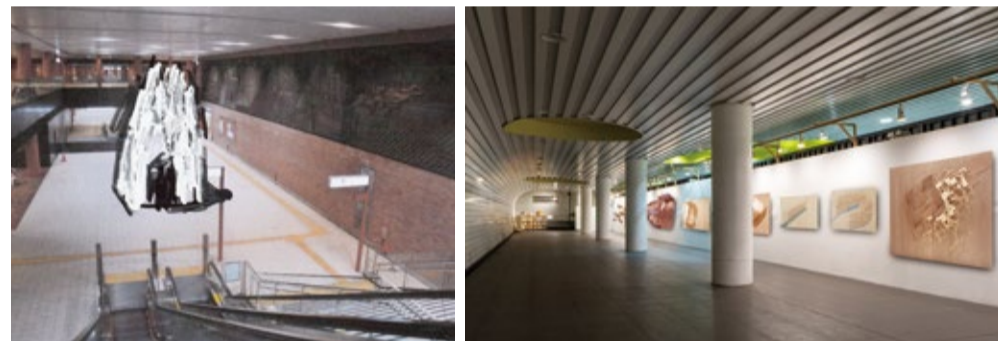
BankART NEWS Vol.17

発行: BankART1929
2020年8月29日発行

ヨコハマトリエンナーレ2020連動企画 BankART Life VI 川俣 正「都市への挿入」 9月11日よりスタート!

会期 | 2020年9月11日[金]~10月11日[日](休場日:毎週木曜 ※10/8を除く)
時間 | 11:00~19:00
会場 | BankART Station、BankART Temporary、馬車道駅構内
料金 | ¥1,000(一般)、¥600(大学生、専門学校生、横浜市民/在住)、
無料(障がい者手帖お持ちの方/付添1名・高校生以下・65才以上)

2012年のBankART Studio NYKでの大規模なインスタレーションに続いて、川俣正(パリ在住)が、再び横浜の地を舞台に発表する。工事中足場単管と仮囲いを使用する安全平板鋼板を用い、元銀行の建物(BankART Temporary)の内外に縦横微塵なインスタレーション(=都市への挿入)を構築する。さらに、みなとみらい線馬車道駅構内にもじみ出て、日常の世界へも展開していく予定だ。



20ヨコハマトリエンナーレ**20**チケット連携

「BankART Life VI」と「ヨコハマトリエンナーレ2020」[黄金町バザール2020]と一緒に楽しめるお得な「横浜アート巡りチケット」発売!

一般¥2,800、大学生・専門学校生¥2,000
※高校生以下BankART・黄金町は無料(ヨコトリ2020は高校生以下¥800 / 中学生以下無料)

CREATIVE RAILWAY

会期 | 2020年9月26日[土]~10月11日[日]
会場 | みなとみらい線 新高島駅~元町・中華街の各駅とその周辺



「Creative Railway」は、現代アートの国際展「ヨコハマトリエンナーレ2020」の開催に合わせ、まちにひろがるトリエンナーレの一環として、横浜の都心臨海部を走り、駅舎自体のデザイン性が高い「みなとみらい線」の各駅を会場に、アート作品の展示やパフォーマンス等を実施するものです。日常的に利用する駅にアートの要素を加えることで、身近にアートに触れ、楽しむ機会を創出します。都心臨海部周辺でクリエイティブな活動を行う6つの「創造界隈拠点」の取り組みを一体的につなげ、まち全体を盛り上げます。横浜市、横浜高速鉄道株、創造界隈拠点が主催。

バンカートは、馬車道駅と新高島駅が今回の Creative Railwayの舞台。偶然というべきか、このふたつの駅にBankART1929の各拠点がある。したがって、駅に設置する作品と拠点で展示する作品を同時にみてもらえるようにプランニングした。無料で観賞できる駅なかの展示とヨコトリ2020と連動する有料会場の BankART Temporary と BankART Station がリレーするようなプログラムになっている。

新高島駅「展示会の絵」

海外には、もと駅だった空間をリニューアルした美術館が散見される。パリのオルセー美術館はその好例だが、現在の横浜美術館も形式的にはその構造を引いている。今回のプロジェクトでは、駅の地下深くの燻し銀の壁面に絵画作品群を設置する。出品作家は、松本倫子、関本幸治、樋口昌美、小山穂太郎、幸田千依、その他一般公募で選出された作品数点。

馬車道駅「えきなか動物園」

馬車道駅構内を動物園とみたと、各所に現代アーティストが表現した動物をテーマにした作品群(立体/平面)を設置。李承亮(台湾)、井原宏路、松本倫子、中谷ミチコ、櫻井かえで、開発好明、朝倉撰、滝沢達史。



R16の行方

短期での活用予定だった東横線(横浜駅~桜木町駅)廃線跡高架下。巨大な荷物や作品の一時保管、ラフな仕事のアトリエと考えていたので、設備は必要なかった。実際、設備投入はハードルが高く、水道、電気を引こうとしても国道16号線とJR根岸線に両側をブロックされていて、許認可に時間がかかり、施工方法、施工費にしても困難を極めた。それでも、サバイバル覚悟で力強く活用してくれるアーティストが数人いたので、なんとか時間とお金をかけてでも次の段階にいくんだという意志をもって、この間、設備展開を行ってきた。当初、電気は隣の会社から分電してもらった15アンペアをアーティスト12人でシェア。LED照明8w × 6体 × 12人が限界。電気工具は全てジェネレーターでなんとかしのいだ。上水道も時間がかかり約12ヶ月待ち。そのあと、電気引き込み許可があり180アンペアまで確保。そしてようやくこの7月に水洗トイレを設置することができた。ここまでできたのだから次の段階にいたいものだ。継続活用している、土屋信子、渡辺篤、PHスタジオに加えて、丸山純子、他若い入居アーティストがこの9月から活動を始める。



BankART SILK 終了!

2019年2月1日にスタートした「BankART SILK」が、閉館することになった。BankART Studio NYK解体以降、分散してしまった拠点を直し、統合することになったからだ。歴史的な位置づけ、建築、立地、内部空間ともに、お気に入りの場所だったのに、とても残念だ。もう少し財力があれば続けたかったというのが正直なところだ。オープン当初はレンタル事業を中心に計画していたが、結果とし

て、企画主催事業が多く、それなりに力をいれた展覧会が多かった。この幸せな場所での思い出は一生忘れないだろう。関わってくれた作家たちやクリエイターたちや関係者に感謝するとともに、自ら灯火を消してしまうことをお詫びしたい。また、BankARTの新しく展開する場所で、引続きつきあっていただければありがたいと考えている。



高橋啓祐「映像と身体」
2019.2.1~2.24



矢内原充志展
2019.2.27~3.9



横国卒計展・IUI展・初出展03
2019.3.20~3.24



「歴史的建造物保存活用タナーンゴボイ」シンポジウム2019.3.16+4.6+4.13



『宮本隆司：首くり肖像』出版記念展覧会
2019.3.18~3.31



BankART AIR 2019 オープンスタジオ
2019.5.31~6.9



U35 藤本 涼「クラウドフォーカスの行方」
2019.6.14~7.15



松本倫子展「ニューヨークに銭湯」
2019.9.27~10.27



U35 遠藤章子展〜肌理とアモルフラス
2019.11.29~12.22



心ある機械たち again
2019.12.28~2020.2.2



TPAM2020フリンジ企画 東京タンバリンわのわ「花筏」2020.2.8~16



アイムヒア プロジェクト|渡辺 篤「修復のモニュメント」2020.6.1~2020.7.26

アイムヒア プロジェクト|渡辺篤「修復のモニュメント」

@BankART SILK 2020年2月21日~29日/6月1日~7月26日

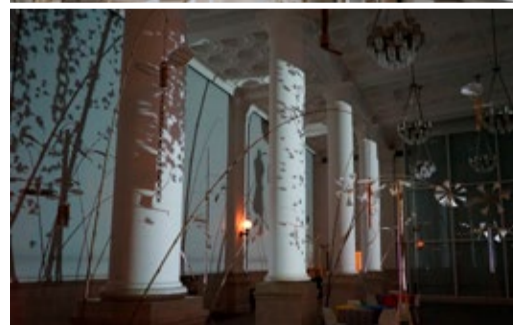
美術家・渡辺篤氏が発足、中心となって活動している「アイムヒア プロジェクト」による展覧会「修復のモニュメント」をBankART SILKで開催。自身も過去にひきこもりの経験を持つ渡辺氏。2013年ひきこもり生活から美術家として復帰後、横浜を拠点に、制作・発表・出版活動・またそのプロジェクトへの取材対応と、どれも丁寧に対応され、活発な活動が続いている。「修復のモニュメント」は、ひきこもり当事者・経験者6名との、対話の中での共同制作などを展示。「被害者と加害者の振り分けを越えて」は、会場に渡辺氏が作成したコンクリートタイルが敷き詰められており、そこを壊しながら歩かないと作品を見ることができない。つまり足元の

タイルを壊して加害者にならないと作品に近づけない状況を作っており、気づかずに人を傷つけていることを可視化した展示である。オープニングでは渡辺氏は、「ここに居る人たちが喜びを感じ合えようではなく、今日ここに居ない人の事を想像してみたい」と。これまでの活動をまとめた作品集「I'M HERE」も刊行。(BankART Blogより)



ヨコハマ創造都市センター BankART Temporary オープン! 松本秋則+高橋啓祐「緑陰図書館2020」開催

BankART1929が始まった際に活用したのは、1929年生まれ旧第一銀行と旧富士銀行(現在の東京藝大)のふたつの建物だった。旧第一の方は、「BankART 1929 Yokohama」、旧富士銀行の方は「BankART1929 馬車道」と命名。2004年のことだ。諸事情があって「BankART1929 馬車道」はすぐに東京藝大に譲り、「BankART1929 Yokohama」の方も、2008年度でBankARTとしての活動は終了した。2020年度、再び諸事情があって、一年限定のプログラム「BankART Temporary」が、4月から静かに始まっている。新型コロナ感染の事情もあり、現段階では展覧会という体裁はとれないが、雨風をしのげる街の中の通り道のような場所として、利用していただければと考えている。竹と音のインスタレーションは松本秋則さんの作品。暗くなったら建物内外に映し出される映像は高橋啓祐さんの作品だ。この古典建築に似合いそうなBankARTに関わりのある作家たちの生き物も徐々に配していく予定だ。密度と会話と欲望を遠ざける都市の中で、どのようにアートが街行く人と会話を続けられるかのささやかな試みだ。緑陰図書館2020.6.1-8.8 (BankART Blogより)



BankART AIR@ Temporary オープンスタジオ開催!

2020年7月23日~26日、7月31日~8月2日

1ヶ月半ほどの短期AIRプログラムにもかかわらず、参加者の作品のレベルは高く、完成度が高い作品も見受けられた。キャンバスいっぱい展開した彩色豊かなパラの絵画は樋口昌美さんの作品。壁一面を覆い尽くすドローイングやオブジェを制作していた堀江和真さんと建築家、足立真輝さんとのコラボレーション。コロナ禍の中、朝早くから夜遅くまで黙々と仕事をすすめているクリエイターたちの姿は頼もしく感じられた。美術館やギャラリー、横浜市の方々や近くの住人の方等、多様なお客さんが来館された。連日開催したアーティストトークも満席で、トーク終了後も閉館まで交流を楽しんでいる様子が印象的だった。(BankART Blogより)



台北市・横浜市アーティスト交流プログラム2019

李承亮「横浜星猩」開催!

@BankART Station 2020年3月20日~29日

台北市・横浜市アーティスト交流プログラムで、1月からBankART SILKのスタジオ内で制作を続けてきた李承亮(リ・ショウリョウ)氏。その滞在成果の発表となる展覧会「横浜星猩(よこはましんしん)」展が、BankART Stationで始まりました。彼は今まで立体作品を作っていましたが、今回は初めてアクリル絵具を使って平面作品を挑戦しました。メインは10mのキャンバス絵画作品です。横浜での生活風景からインスピレーションを受けて、列車の様なマンションや缶コーヒーの広告、雑誌の切り抜き、マンガのひとコマ、赤い猩猩(しょうじょう)など、李さんが想像した横浜のSFの世界が描かれています。もうひとつのメイン作品は、ブルー色の「猩猩」の彫刻。木材や金属、コンクリートなどの材料を組み合わせた作品です。足元に何かを踏んでいます。人間の様々な思いや欲望や優しさを表しているのでしょうか。(BankART Blogより)



台北市・横浜市アーティスト交流プログラム2019

細淵太麻紀「台北滞在報告会」

@BankART Temporary 2020年6月19日

BankART1929の副代表である細淵太麻紀氏は、近年、都市・美術を融合した写真表現で作家活動を活発に行っている。今年、台北TAVとのAIRプロジェクトに参加し、彼女が滞在中に目を付けたのは剥皮寮歴史街区のティンアカ(亭仔脚)。赤レンガを積み重ねた約200年の歴史的建築物。現在は多目的施設として活用されているが、以前はお風呂屋や、茶室、時計屋、米屋、老松国立小学校など生活機能を兼ね備えた街区だった。現在も通路や、憩いの場であるティンアカは台北市民にとって、友好的な関係作りの場となっている。細淵氏は、そのティンアカの一部を超大型ピンホールカメラに見立て、作品制作期間中に鑑賞者が内部に入りこむ体験型の作品を展示した。

トークと成果の映像を通して、彼女が3ヶ月間いかに「都市」をリサーチし、制作を行ったことがよくわかる。それは、BankARTがやってきたことを一貫している。(BankART Blogより)



編集後記

コンテンツとフレーム。このふたつの言葉を往来するのが、BankART1929の日常だ。どこで何をやるのか? この秋、新しいプロジェクトが、いきいきとした姿を見せてくれることを信じて。

アクセス

- BankART Station (横浜市西区みなとみらい5-1) みなとみらい線「新高島駅」地下1階
- BankART Temporary (横浜市中区本町6-50-1) みなとみらい線「馬車道駅」徒歩1分
- BankART Home (横浜市中区相生町3-61 泰生ビル1F) みなとみらい線「馬車道駅」徒歩5分/11時~23時/日曜定休

お問い合わせ | BankART1929

TEL: 045-663-2812 E-mail: info@bankart1929.com
www.bankart1929.com